

「育ちと学びをつなぐ」
幼保小連携・接続版④

遊び学び育つひろしまっ子!

年度末になり、園・所にとっては年長児を送り出す時期、小学校にとっては新1年生を迎える準備をする時期となりました。各園・所で大切に育ててこられた子供たちが、小学校でも主体的に自己を発揮できるようにするためには、どのようなことを大切にすればよいでしょうか。

今回のテーマは「育ちと学びをつなげよう」です。



子供たちが主体的に自己を発揮できるようにするために

園・所のリーダーとしての役割を果たし、自信を育んできた年長の子供たち。小学校へ入学後もその力を発揮するためには、**安心できる環境(人・もの・こと)**が必要です。今一度、入学してくる1年生が安心して学べる環境、主体的に自己を発揮できる環境になっているかを振り返りましょう。

安心できる環境で成長を支えましょう

子供たちが主体的に自己を発揮するためには、先生や友達との信頼関係が基盤となります。先生も重要な環境の一つであることを再認識して、子供一人一人と関わりましょう。

◇大切にしたい教師の姿勢と★校内体制

- ◇児童と一緒に活動を楽しむ
- ◇内面を理解する
- ◇児童の様子を温かく見守る
- ◇長い目で見る
- ◇児童の目線で話を聞く
- ◇いつも大切にしたい姿勢ですね
- ★全職員が1年生に関わる等

人・こと



自ら考えられる環境で自立を目指しましょう

子供たちは、乳幼児期に自ら興味や疑問を持ち、自分なりに試行錯誤する経験をしてきています。これまでの経験を生かし主体的な学びに向かうことができる環境を作りましょう。

●環境の工夫

- 掲示物等で見通しをもって生活できるような工夫(1日の時間の流れ、目の高さの掲示等)
- 自分で選択して活動できるようにする(遊びコーナー等)
- 協働的に学べるような学習形態 等

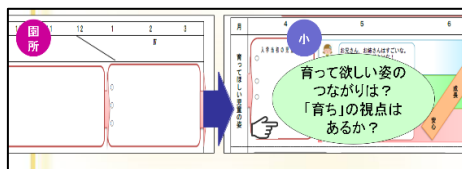
もの・こと



乳幼児期に育まれた資質・能力を生かし、育ちと学びをつなげましょう

乳幼児期に遊びの中で育まれた資質・能力を、さらに小学校で伸ばしていくことができるよう、園・所の先生方と子供たちの育ちや学びを共有しましょう。

また、子供たちに園・所や家庭での経験を聞くなど、つながりを意識しながら、学習活動を進めましょう。



↑ 園・所と小学校でカリキュラムを並べて見直してみましょう。

指導要録等を活用して 子供の育ちを理解しましょう

年度末に園・所から送付される**指導要録等**(幼稚園…幼稚園指導要録, 保育所…保育所児童保育要録, 幼保連携型認定こども園…幼保連携型認定こども園園児指導要録)は、園・所の先生方が捉えた、一人一人の幼児期に育まれている資質・能力や、その指導の過程、育ちつつある姿について分かりやすく明記されています。

メッセージ ～子供たちと向き合う先生方へ～ 安田女子大学 朝倉 淳 教授

コロナ禍で身に染みたこと。自動車は部品がそろわなければ完成しない。仕事や生活は他の誰かの仕事や生活に支えられている。人々の感じ方や考え方には違いがある。連携・接続がなければ社会は成立せず、人々は生存も成長もできないということ。一人一人の子供たちに関わる連携・接続にどう取り組むのか。子供たちがどのように学び育つのかという真実を追究しなければ、その方向性は得られません。そのヒントはいつも現実の子供の姿の中にあります。大人の利害や都合が先行しては、確かな未来は叶わないでしょう。

私たちは今、ぎりぎりの場所にいます。今後も続く困難の中で生き抜いていく。それは一人や数人ではできないことです。無関心、対立、紛争、そんな場合ではないです。連携・接続、協働、平和こそが、未来を拓く子供たちの生存と成長を実現します。子供のそばにいて子供の成長を願う人々がつながり、声を上げ、未来創造に取り組んでいくことが「鍵」なのです。

「連携・接続」は
未来を拓く鍵



朝倉教授には、本県のような取組に関して御指導をいただいています。今年度も、ニュースレターで先生方へメッセージをください。

今年度やってみた！ 幼保小連携・接続の取組の工夫

職員同士の交流

- ・小学校区で月1回、園・所の管理職は小学校を、小学校の管理職は園・所を訪問し、幼児児童の姿を通して育ちを確認した。
- ・小学校の授業公開を1週間に設定し、一度に来てもらうのではなく分散して見られるようにした。感想は紙に書いてもらい、その後電話でも連携した。
- ・4月の授業参観後に、現担任と前担任とで交流した。
- ・保育士を招いて生活科授業を行い、職員研修として、環境構成の工夫等について交流した。
- ・小学校教員が保育所で1日参観を行った。
- ・小学校教員が指導案を作成し、実際に保育を行った。
- ・小学校区の園・所と小学校で、取組の成果と課題を整理し、次年度の取組の方向性を協議した。

子供同士の交流

- ・1年生から新入学児へ手紙を送った。
- ・1年生が小学校生活を紹介するビデオレターやDVDの作成を行った。
- ・オンラインで、園と小学校で交流した。
- ・保育所で、お散歩のコースに小学校を入れ、小学校のグラウンドで体育の様子を見学したり交流したりした。
- ・夏休みを利用して年長児が学校探検を行った。
- ・保育所の年長児が1年生の運動会の練習を見た後、園に帰って自分にどう生かしていくかを振り返った。

カリキュラムの改善に向けて

- ・各校区で「目指す子供の姿」を共有した。
- ・園に小学校のスタートカリキュラムを届けた。
- ・町内の各校で作成したスタートカリキュラムを共有サーバーに保存し、情報共有できるようにした。

その他

- ・入学説明会の資料を、園・所へ届けた。
- ・お互いの通信（おたより）を送り合った。
- ・校内研修を行い、スタートカリキュラムの意義等を全職員で共有した。



園・所

円滑な接続のために、子供の実態などの情報を共有できるよう、おたよりや動画配信で知らせるなど、具体的に伝え合う関係づくりを実践していきたいです。

クラスに安心感があると、子供たちはより主体的に学ぶことができるのだと思いました。「児童が学校って楽しい！」と言ってくれました。



小学校



園・所

スタートカリキュラムなど、小学校の様子が変わってきているのがわかりました。学ぶ基盤があることによりどんな環境でも対応できると思うので、園では、その基盤づくりを大切にしていきたいです。

児童一人一人の難しさや課題にばかり目が行きがちでしたが、園との連携を通して、児童のことを深く理解することができました。連携したことを実践につなげることができました。



小学校

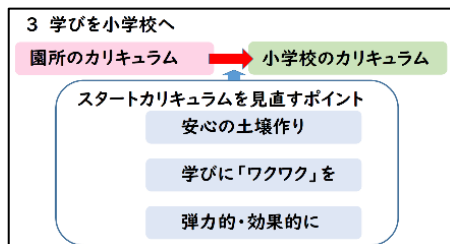
幼保小連携担当教員研修会や「育ちと学びをつなぐ」幼保小連携・接続の充実事業報告会、市町に対する調査等で挙げた工夫・感想です。次年度の参考にしてください。



幼児教育長期派遣研修発表会・「育ちと学びをつなぐ」幼保小連携・接続の充実事業報告会

<第1部> 幼児教育長期派遣研修発表会

広島大学附属幼稚園で今年度1年間、長期派遣研修として学んできた研修生が、研修のまとめとして、成果発表を行いました。



研修生の発表
スライドより

<第2部> 「育ちと学びをつなぐ」幼保小連携・接続の充実事業報告会

事業の指定市町（廿日市市、海田町、坂町、安芸太田町、府中市、三次市、庄原市）が、1年間の取組の報告を行いました。

コロナ禍の中、各市町で様々な工夫がされました。（上記参照）

<参加者の声>

- 保護者向けリーフレットの作成、マスコミを活用した広報等が参考になりました。
- 本事業を通して、幼稚園・こども園・保育園それぞれによさや教育内容（方針）をつなぎ、市町・県内の幼児教育の充実に寄与できればと思います。

【発行元及び連絡先】 広島県乳幼児教育支援センター

〒730-8514 広島市中区基町9-42 広島県教育委員会事務局（東館6階）

TEL (082)513-4978 FAX (082)212-3331

広島県乳幼児教育支援センターホームページ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/youji-index.html>

